

## 答辞

新しい春に備え胸ふくらませている本日、平成二十八年三月二四日、私達は早稲田大学を卒業する日を迎えました。ご来賓、先生方、ご父兄の皆様のご臨席を賜り、このような盛大な式典を執り行つて頂きましたことを、卒業生を代表いたしまして心より感謝し厚く御礼申し上げます。

思い起こせば四年前、より高い専門性を身につける機会を得、希望に燃えて大学生となつてから、これまでのことが、今、噛みしめるように思い出されています。特に印象的なことは、個性あふれる先生方のレベルの高い講義、嵐のように降り注いだレポート、そして昼夜を分かたず研究に励んだ研究室での生活です。この四年間、時には辛いと感じたこともありましたが、一歩ずつ前に進むことができたのは、志を共にする友人や先輩の存在があつたからだと思ひます。

これから先、早稲田大学の大学院に進学する者、他大学の大学院に進学する者、そして就職する者とそれぞれ進む道は異なりますが、この四間で得た経験は、私達の今後の人生における貴重な

な財産です。一人一人が応用化学科で学べたことに誇りを持ち、卒業後それぞれの分野において、在学中に学んだことを最大限に活かせるよう日々精進して参ります。

最近では、日本人二人によるノーベル賞の受賞や理化学研究所による一一三番元素の発見など、科学分野における朗報に沸いている日本であります。が、将来この応用化学科の卒業生からも人々の幸せに貢献し、科学という面で社会を支える存在が現れることを切にお祈りいたします。

最後になりますが、私達に学びの場と友人と過ごす時間を与えて下さった学校、御指導、御助言を賜りました先生方、様々な面でお世話になりました事務所、並びに応用化学会の方々、いつも支えて下さった先輩方、同輩達、そして私達の成長を見守ってくれた家族に改めて心から御礼申し上げます。後輩の皆様のご活躍と応用化学科の益々の発展を願いまして、答辞とさせて頂きます。

平成二十八年三月二四日

早稲田大学先進理工学部応用化学科 卒業生代表

浅見幸平